

PORT TOWN MISUMI-URA 三角で民泊



今年4月に三角町に元空き家の民泊施設が開業。客層は主に小さい子がいるファミリーや学生、国内の外国人で、8月末までに10組45人が利用しています。宿泊費が安く、周りを気にせず宿泊できるのが民泊。この物件に決めた理由は、三角駅が近く、天草に行く途中の立地ということ。アフターコロナは外国からの観光客も増えるため、今後、こういった事業の需要はもっと高まることが期待されます。



1・2 和室は、外国人観光客はもちろん、都会住まいの日本人にも人気 3・4 外国人観光客も多いのでWi-Fiと最新型のトイレは民泊では必須 5 人数分の布団を用意。机は元々置いてあったものを利用 6 昔ながらの純和風の外観



運営 がはく
(株)九州雅泊
トリップ

代表取締役社長
浦上 英樹 さん(52)



会社サイト

度自分で工事をすれば少ない経費で済み、自分の好きなようにデザインできること。今後はイズミヤのさらなる改装と、別の空き家を使った新しい事業も考えているそう。

アンティーク雑貨にあふ

れ、タイムスリップしたか

のような懐かしい雰囲気

のイズミヤ。そんなこだわり

のお部屋を紹介します。



リサイクルショップで買ったタイルが
かわいい洗面台



私のお気に入りの
雑貨たちです



小川のホステルイズミヤ

住所 宇城市小川町小川116

料金 1泊 3,000円

イズミヤの
ショートムービー



予約・お問い合わせ



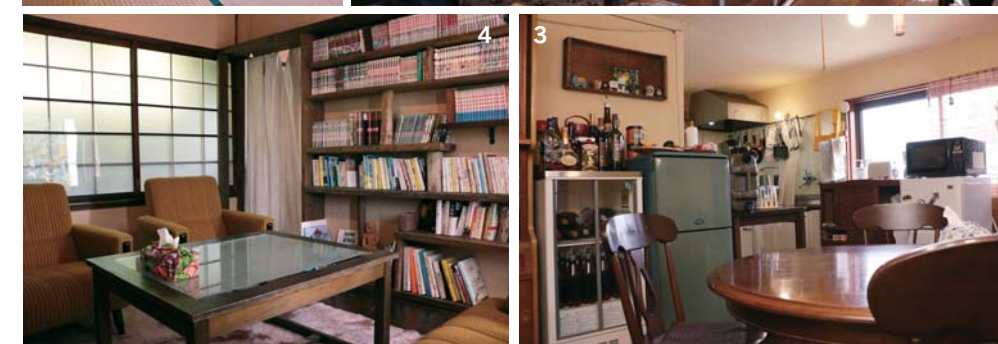
人を呼ぶ家に

小川のホステルイズミヤ

小川阿蘇神社の横にたたずむ「小川のホステルイズミヤ」。静岡県から2年前に移住した川村侑未さんが経営しています。元々食堂だった築55年の建物を自らの手で改装し、古民家ゲストハウスとして昨年3月にオープン。以降、日本一周中の旅行者や九州を旅するバイカーなどに利用されています。

元々古いものと旅行が好きで川村さん。旅行の先々で現地の人に良くしてもらった経験から、「いつか自分も迎える側になりたい」、そんな気持ちを抱いていたとき、小川町商店街で空き家を活用した施設に宿泊。古い町並みと人々の人柄の良さに触れ、この地に移り住みました。

川村さんいわく、空き家を利用するメリットは、ある程



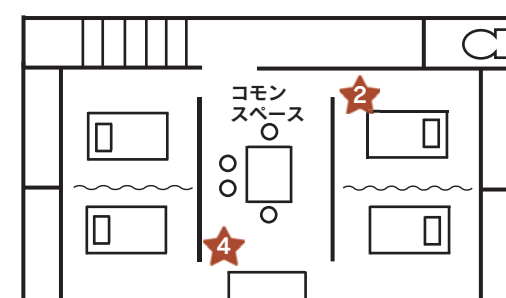
1 おしゃれな雑貨があふれるコワーキングスペース 2 2階の宿泊スペース隣はカーテンで仕切られ、最大4人が宿泊可能 3 泊まった人が自由に使えるキッチンとダイニングはいろんな人との交流の場に 4 畳敷きだった床は、板材に張り替えコモンスペースに 両壁にはマンガなどの本がそろ

至る所にあるこだわりの照明たち
行って探してみよう

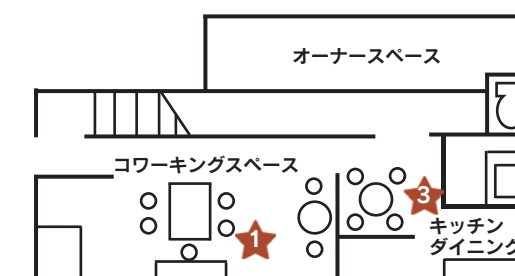


商店街の建物の解体時に譲ってもらった
スタンドライト

レトロな
1970年代の
照明



2階



1階